



金色の鷄

神倭伊波礼毘古命の一行は戦いを重ね、人々を苦しめている者たちを倒していきました。

ついに最後の戦いの時が来ました。兄の五瀬命の命を奪った那賀須泥毘古の軍との二度目の戦いです。しかし、今回も大変苦しい戦いとなり、勢いに押されて命たちはだんだんとその力を弱めていきました。

その時です。急に黒い雲がわき上がり、空がまっ暗になりました。パラパラと雹も降ってきました。そこへ、天空より金色に輝く不思議な鳥（鷄）が飛んできて、命がお持ちの弓の先に止まりました。

鷄の輝きは光輝く太陽のようでありました。あまりのまぶしさに那賀須泥毘古の軍は目がくらんで戦うことが出来なくなりました。命の一行はこの時とばかり攻め立て、勝利を収めることが出来ました。